

七人の神様



新築の家には7人の神様が舞い降りるらしい。1番目の神様は、お客様を招き入れる厳かな挨拶間に居を構える。2番目の神様は、華やかな場所である玄関を選ぶ。そして、3番目の神様は最もにぎやかなリビングに住みつく。こう書くと、4番目以降にもしんと興味を湧いてくるものだが、これは天上界からのメッセージに心を傾けている人のお話らしいので、信じるか信じないかはご自由に。

なぜ1番目の神様が厳かな挨拶間を選ぶことができるか。実は、何も持つておらず手ぶらでやって来ると言われているからだ。2番目の神様はとても小さい紙袋を持ち、3番目の神様は質素なセカンドバックを携帯する。身軽な神様ほどフックがよいから、好きな部屋を選べるのだが、神様にも個性があるというわけだ。ちなみに、4番目の神様はシンプルなナップサックを背負い、5番目の神様はといえばオーソドックスで小さめのリュックを、6番目の神様は少し大きめのリュックを背負っているらしい。しかし、7番目の神様の背中にはバックパッカーが背負っているような大きなリュックサックがあり、重くて速く走れないため、どの神様も選ばなかったトイレの担当になるのだという。

文は



人なり

8

実は、7人の神様の荷物には金銀財宝なのだ。大きな入れ物を持ち、重い荷物を背負っている神様ほど金運を良くしてくれるらしい。だから、バックパッカーのような大きなリュックサックを背負ってくる7番目の神様を敬わなければ、金運には恵まれない。トイレの神様が尊ばれる最大の理由は、そこにあるのだ。家の水回りを清潔にしてあげば金運が良くなるという話を聞いたことがある人は少なくないだろ

2つのサボテン

う。いくら忙しくても、毎朝、自宅のトイレ掃除を行う人がいる。なかには最もご利益があると言っている人がいる。トイレ掃除は「素手掃除」を敢行する人までいるらしいが、快適な環境で生活できるだけでなく、心の安定も得られるのだとか。

「トイレの神様」という言葉はどこで生まれたのだろう。かつてのヒット曲の影響が多分にあるかもしれないが、トイレは宇宙とつながっているという持論を展開する人もいて、天上界の神様が与えてくれる金運と深く関わってくるらしい。

忙しい毎日を送っているとしても掃除はやるべきで、週断捨離という言葉があるけれど、それはモノに限ったことではないらしい。忙しい毎日を送っているとしても掃除はやるべきで、週断捨離という言葉があるけれど、それはモノに限ったことではないらしい。忙しい毎日を送っているとしても掃除はやるべきで、週断捨離という言葉があるけれど、それはモノに限ったことではないらしい。

「欲望」「不平不満」「怒り」などが宿っている。それらを捨て去るための心の断捨離をする。ここで、神様があらかじめインストールしてくれた人間本来の「七つの要素」が正常に働くようになるという。

「感謝」についての興味深いエピソードがある。色も形も大きさもほぼ同じ二つのサボテンを自分の部屋に置いて話しかけながら育てている人がいる。一つのサボテンは優しく褒める。もう一つのサボテンは思いつきりけなす。それを繰り返している。ある変化に気がついたという。それは、自らの心が蝕まれていく兆候が出てきたこと。辛辣な言葉を発したり、下品なセリフを放ったりしている。いつも一番近くで聞いているのは自分自身の心なのだ。半年後、さらなる変化があったという。「いつもありがたう」と優しく声をかけながら育てたサボテンだけが、可憐な白い花を咲かせた。

「奥深さ」「感謝」。し。ふれており、住み心地がよいに、「執着心」や代表取締役 工藤勝二」

「文章よくなる株式会社」